

学事・援助金システム標準化対応支援業務委託
プロポーザル第1回選定委員会 議事録

開催日時

令和 5年 4月 27日 (木)
午後 2時 30分から午後 3時 まで
中層棟 4階 第3委員会室

出席委員

学校教育部次長（委員長）、学校教育部学務課長（副委員長）行政経営部情報政策室参事、市民部市民課参事、福祉部高齢福祉室参事

議題

学事・援助金システム標準化対応支援業務委託プロポーザル実施要領の制定について

【質疑応答】

（委員） 3参加資格（7）について、専従か兼任か。体制はどう考えているのか。

（事務局） 現在、専従割合は体制については想定していない。業務従事者調書の専従か、社内での兼任業務を記載する欄があるため、一定書類審査できると考えている。

（委員） 3参加資格（6）について、人口30万人以上となるとかなりハードルが高いのではないか。応募事業者数の想定はあるのか。

（事務局） 数事業者ヒアリングをしたりしている。情報をホームページ公開後に何社かに声をかける予定でいる。また、吹田市の規模を考えると同等程度の人口規模での実績がないとプロジェクト遂行は困難であると考えている。

（委員） 審査項目について、専従割合が高い方が得点が高いと考えてよいのか。

（事務局） 審査項目項番6の職員の負担軽減の得点を高くしており、重視している。

（委員） 常駐は考えているか。

（事務局） 考えていない。

（委員） 募集要項の配布について、ダウンロードによる配布だと誰がダウンロードしたかがわからない。最終的に何者が提案するか直前までわからないが、事務局がよいと判断したらそれでよい。

（委員） 審査評価項目記載の仕様書内の項番が、事前送付されたものと当日配布されたものにずれがあるが。

(事務局) 本日配布分が正しい。

(委員) 現段階で何者ぐらい提案してもらえそうか。

(事務局) 見積り取得段階で3者から見積りを取得している。提案の意思はあると考える。

(委員) その3者とも吹田市と同規模以上の自治体での実績があるか。

(事務局) 実績は確認済である。

(委員) 審査評価項目について、所管課としてどのような点に重点を置くか。期待する追加提案はあるか。

(事務局) 所管課には標準化対象システムと非対象システムが存在するため、その2つをいかに効率的に連携させるかを期待している。現在RPAを使用しているが、また異なった視点での提案を期待する。

(委員) 審査評価項目の配点基準について、配点差が細かい。差が小さいと点数の差異が生まれにくい、この配点に何か理由はあるのか。

(事務局) 吹田市で過去に行ったプロポーザルの配点を参考とした。

(委員) 追加提案も見積り金額に含まれるか。

(事務局) 含まれる。

(委員) 評価部会員の構成は。

(事務局) 所管課の担当者2名、管理職1名の計3名。

(委員) スケジュールについて、一次審査通知を6月13日に行い、二次審査を6月16日に行う日程は事業者からしたら非常に短期間ではないか。二次審査の準備が間に合わないため提案辞退となるような事態はないか。

(委員) 募集要項にてスケジュールを公開しているため、対応できると判断したのか。

(事務局) そのとおり。

(委員) プレゼンテーションは提案書の内容をプレゼンテーションするのか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 一次審査通知は6月13日午後5時までとしてあるが、前倒しできればするような体制で臨むのか。

(事務局) 提案者の数にもよると考える。

(委員長) 本選定委員会で学事・奨助金システム標準化対応支援業務委託プロポーザル実施要領は制定された。

以上